

2020 年度アートマイル国際協働学習プロジェクト実施報告

Artmile International Collaborative Learning [AICL]

一般財団法人ジャパンアートマイル

2020 年度「アートマイル国際協働学習プロジェクト」(後援:文部科学省・外務省)はコロナ禍で始まり、コロナ禍で終わりました。3月～4月の募集期間に新型コロナウイルス感染症が世界中に拡がり、次々とロックダウンする国・地域が増え、学校は閉鎖になりましたが、アートマイル国際協働学習はインターネット上のフォーラムを使って学習することから、22 の国・地域から応募があり、68 の学校が参加しました。世界はコロナ前と大きく変わり、教育現場もその時のコロナの感染状況によって対応を迫られる中、参加校は一つ一つ困難を乗り越えて協働学習を進めました。コロナ禍で国をまたぐ人の往来が無くなった時に、世界と繋がって生まれた協働学習の成果と、コロナ禍にはっきり見えてきた日本の教育の課題について報告します。

1 国内・海外の参加校

2020 年度アートマイル国際協働学習プロジェクトには、22 の国・地域から、68 校 2,743 名の児童・生徒が参加しました。

【参加都道府県】15 都道府県

宮城県、茨城県、千葉県、東京都、新潟県、福井県、岐阜県、愛知県、大阪府、兵庫県、岡山県、広島県、福岡県、佐賀県、熊本県

【参加国・地域】23 の国・地域

アゼルバイジャン、アメリカ、インド、インドネシア、エストニア、カナダ、カザフスタン、ギリシャ、クロアチア、サウジアラビア、スウェーデン、スロバキア、台湾、ドイツ、日本、ネパール、パキスタン、フランス、ベラルーシ、ペルー、ベルギー、メキシコ、リトアニア

【参加校・参加生徒】

参加校数:68 校 (日本 35 校、海外 33 校)

参加生徒数:2,743 名

(日本 1,512 名、海外 1,231 名)

【参加校一覧】

NO	国・地域	日本校	海外校
1	Azerbaijan アゼルバイジャン	東京都 多摩市立東愛宕中学校	Baku European Lyceum
2	Belarus ベラルーシ	福井県 嶺南学園教賀気比高等学校附属中学校	Gymnasium No.33, Minsk
3	Belgium ベルギー	宮城県 富谷高等学校	GO! Busleyden Atheneum Campus
4	Canada カナダ	福岡県 北九州市立中井小学校	Wyevale Central Public School
5	Croatia クロアチア	兵庫県 県立芦屋国際中等教育学校	Privatna Sportska I Jezična Gimnazija Franjo Bučar
6	Estonia エストニア	東京都 多摩市立聖ヶ丘中学校	Tamsalu Gymnasium
7	France フランス	愛知県 東浦町立緒川小学校	Ecole Élémentaire Balzac de Nanterre
8		愛知県 知多市立佐布里小学校	Groupe Scolaire Carlepont
9	Germany ドイツ	岐阜県 県立恵那高等学校	Bonn International School
10	Greece ギリシャ	千葉県 八千代市立大和田南小学校	13th Primary School of Polichni, Thessaloniki
11	India インド	兵庫県 赤穂市立有年小学校	Oakridge International School, Gachibowli

12	India インド	大阪府 追手門学院中・高等学校	Christ Nagar Higher Secondary School
13		滋賀県 立命館守山中学校・高等学校	The Global Edge School
14	Indonesia インドネシア	茨城県 牛久市立おくの義務教育学校	SDN Bendungan Hilir 12
15		千葉県 船橋市立葛飾中学校	SMP Islam Al Azhar 9
16	Kazakhstan カザフスタン	兵庫県 Sherry 英語教室	School-gymnasium № 10
17	Lithuania リトアニア	東京都 渋谷区立松濤中学校	Klaipedos Simono Dacho progimanzija
18	Mexico メキシコ	福岡県 大牟田市立上内小学校	Comunidad Educativa Yaxunah
19		福岡県 大牟田市立天領小学校	COLEGIO FORMUS
20	Nepal ネパール	兵庫県 赤穂市立原小学校	Mount View English Boarding School
21	Pakistan パキスタン	岡山県 清心女子高等学校	Modernage Public School & College (Girls)
22		佐賀県 県立三養基高等学校	Mansehra Public School & College
23	Peru ペルー	東京都 渋谷区立富谷小学校	Colegio La Unión
24	Saudi Arabia サウジアラビア	東京都 東洋女子高等学校	Al Hussan International School Al Khobar
25	Slovakia スロバキア	熊本県 県立八代高等学校	School of Art Industry
26	Sweden スウェーデン	大阪府 大阪成蹊女子高等学校	Sinclair Gymnasium
27	Taiwan 台湾	福井県 勝山市立荒土小学校	Ying-Qiao Elementary School
28		新潟県 見附市立葛巻小学校	Wen Ya Elementary School
29		愛知県 名古屋市立山王中学校	Lu Jiang International School
30		広島県 竹原市立忠海中学校	Chien-Kuo Junior High School
31		愛知県 豊橋中央高等学校	National Shan-Hua Senior High School
32	USA アメリカ	福岡県 大牟田市立玉川小学校	St. Pius X School
33		東京都 田園調布学園中等部・高等部	SKA Academy of Art & Design
34	Japan 日本	兵庫県 県立赤穂特別支援学校	千葉県 県立桜が丘特別支援学校

2 アートマイル国際協働学習

アートマイル国際協働学習は、海外のパートナー校と ICT を活用して、世界の課題をテーマに、対話的・協働的に学び合い、学習の成果として壁画を共創するプロジェクトベースの学習です。

(1) アートマイルで育てたい力

アートマイル国際協働学習では、子どもたちがこれからの時代を自分たちで切り拓いていく力を育てることを目指しています。

<育てたい力>

①異文化を理解する力

世界と出会って異文化を理解する力、自分たちの良さに気付いて自文化を理解する力

②批判的に思考する力

外からの視点で客観的にものを見て、論理的・批判的に考える力

③主体的に考え行動する力

世界に共通の課題に対して主体的に考え、相手に働きかけて学習をリードする力

④多様な他者と対話・協働する力

多様な考えを持つ相手と議論し、合意して、協働して一つのものを創り上げる力

⑤ 想いを表現する力

世界の人に伝えたい想いを言葉で表現する力、想いを絵で表現する力

(2) 学習テーマは COVID-19

2019年度の学習テーマはSDGsでした。しかし、2020年はコロナ禍が全世界に拡大し、人の流れも物の動きも止まって世界が大きく変わってしまったにも拘わらず、それまでの延長でSDGsに取り組んでも机上の話にしかならないと考え、全参加校に学習テーマとして今全世界が直面している課題COVID-19を提案しました。

「コロナ禍で表面化した社会の問題は何か？」
「問題を解決するためにどうすればいいのか？」
「自分たちに何ができるのか？」正解がないこの課題について自分の頭で考え、世界の仲間と一緒に考える。この危機の先にある自分たちの未来をどのような世界にしたいのか、世界の仲間と議論して、自分たちの答えを見つける学習です。

(3) 国際協働学習の流れ

国際協働学習は5つの段階を追って進みます。



① 【出会い】自己紹介(6月～7月)

海外との協働学習は、お互いを知ることから始まります。自己紹介と一緒に、テーマの COVID-19 について自分がどういうことに関心があるのか伝えたところもありました。今年度はZoomで顔を合わせて自己紹介するところが多く見られました。

② 【共有】テーマ学習(9月)

テーマについて調べたことを相手と共有し、意見交換して学習を深めます。COVID-19 について環境・教育・社会・経済などの観点で調べたことを相手と共有しました。相手の国で起きていることを知り、世界の課題として一緒に考えました。

③ 【融合】想いを形に(10月)

テーマについて話し合いを重ねて考えを深め、自分たちはどういう未来を望むのか、そのために何ができるのか、両方の想いを合わせて世界に訴えたいメッセージ作成しました。

④ 【創造】壁画制作(11月～12月/1月～2月)

メッセージを込めて壁画を共同制作しました。先に日本側が半分描いて相手に送り、相手側が後の半分を描いて壁画を完成させますが、海外の閉鎖が続いている学校では、少人数で学校に集まって描いたり、画材を順番に回して自宅で描いたりして苦労して仕上げました。

⑤ 【評価】振り返り(3月)

完成作品が相手から届いたら鑑賞して、困難な状況の中で壁画と一緒に完成させた達成感を味わいました。生徒は、学習全体を振り返って、アートマイルを通して自分がどう変わったかを見つめて自己評価をしました。

■コロナ禍における国際協働学習

コロナ禍は海外が圧倒的に深刻です。台湾を除きどの国も数ヶ月～1年間学校が閉鎖され、授業はオンラインに切り替わりました。学校が再開しても、感染を防ぐために、対面授業とオンライン授業を組み合わせているところが多くあります。

海外校のオンライン授業について調査しました。

① 海外校のオンライン授業の期間

10 ヵ月以上	インド・インドネシア・カザフスタン・サウジアラビア・ネパール・パキスタン・ペルー・メキシコ・リトアニア
6-9 ヵ月	アゼルバイジャン・クロアチア・スウェーデン・ベルギー
2-5 ヵ月	アメリカ・エストニア・カナダ・ギリシャ・ドイツ・フランス・ベラルーシ

② オンライン授業のメリット・デメリット・苦労

オンライン授業のメリット
・学校閉鎖になってもオンラインで教育を継続し、教師はシラバスを完成させることができる。

- ・自分のペースで学習でき、何度でも復習できる。
- ・瞬時にフィードバックや反応が得られる。
- ・オンラインで画面を共有して他の生徒と議論することができる。
- ・生徒の自己管理能力と責任感が向上する。
- ・インターネットを使って調べ、プレゼンや動画を作成するなど、ICTスキルが向上する。
- ・グローバルコンピテンシーが身に付く。
- ・親と教師間のコミュニケーションが密になって親の学校教育への理解が深まり、これまで以上に親の協力が得られるようになった。

オンライン授業のデメリット

- ・学習に必要なデバイスが無い家庭がある。
- ・インターネットの安定した接続と速度が確保できない家庭がある。
- ・特に小学校低学年では親の助けがなければ家庭での学習は難しい。
- ・積極的に質問してもらわないと生徒の理解度がよく分からない。
- ・平均以下の成績の生徒、勉強しない生徒の指導が難しい。
- ・アプリを勉強以外に使って勉強に集中できない生徒の監督がリモートではできない。
- ・オンラインでの試験、成績をつけるのが難しい。
- ・展覧会、演劇、コンサートなど、重要なイベントが中止され、生徒は孤立して、一体感や友情を保つのが難しくなっている。
- ・人との交流がなく、社会性や情緒面の発達を育む機会がなくなっている。
- ・長時間画面を見続けることにより、運動不足、腰痛、視力低下などの身体的問題、不安、摂食障害、うつ病などの精神的問題が出ている。

オンライン授業で苦勞したこと

- ・国から、生徒の健康に配慮してオンライン授業は主要科目に限定し、授業時間は半分にするように指導があり、カリキュラムをこなすのに苦勞した。
- ・オンライン授業の準備とオンデマンドの教材作りに多くの時間がかかった。また、学校が再開しても感染を恐れて子供を学校に行かせたくない親の子どもたちに向けて、対面授業とオンライン授

業の両方に対応しなければならず、教師の負担が大きかった。

- ・オンライン授業では実習が行えず、刺激の少ない授業になりがちなので、生徒のモチベーションを維持するために、教師は非常にクリエイティブになり、工夫した授業をしなくてはならない。
- ・生徒の不安、鬱などの精神的な問題に対処することに非常に苦勞している。

考察

ICT教育が世界に大きく遅れている日本にとって、海外の先行事例には参考にできることが多くあるように思われます。

日本は公平性という名の下に「やらない」ことを選択した学校が多くありました。対照的に海外ではやれることからするのが当たり前で動いています。

特に見習うべきは、突破力と柔軟性です。目的を達成するための方法を柔軟に考えて、課題が分かれば知恵を出して突破します。

GIGAスクール構想の実現に向けて動き出した日本にとって、海外の実例は、端末を配布しただけで終わらせず、生きたICT教育を進める上で大きなヒントになると考えます。

3 学習の成果

コロナ禍で海外校の多くが学校閉鎖が続いたり、授業制限がある中、両校で話し合っただけで進めてきたことで、教師にとっても生徒にとってもこれまでにない気付きや学びがある一年となりました。日本の生徒と教師の意識の変化を紹介します。

(1) 生徒の意識の変化

- ・初めの頃は教員の指示を仰いでいた生徒が、学習が進んでいく中で、次に何をすれば良いか先を見て行動し、自分たちがどうしたいかを提案しながら自ら動くことができるようになった。
- ・先の見えない課題に対して、海外の児童と一緒に考えていこうとする態度が大きく育ったことが一番の成果である。
- ・課題について客観的な視点で資料を集め、自分の考えを論理的に組み立てて説明することに苦勞していたが、パワーポイントが完成した時には達成

感を感じていた。

- ・世界で起きていることを自分事として捉えることができるようになり、世界のニュースにも目を向けることが増えて、休み時間に世界ニュースについて会話している様子が見られるようになった。
- ・学習が深まるごとに、相手意識や目的意識が高まり、自分なりに工夫し、積極的に活動に取り組む姿が見られるようになった。
- ・文化や生活習慣が異なる国で暮らしていても、未来に対して自分たちと同じような思いを持っていることを実感し、みんなで課題を解決していきたいという意識が芽生えた。
- ・「調べたことを伝える」「思いを伝える」ことに重点を置いて学習を進める中で、当たり前だと思っていたことが本当にそうなのか、正しいと思っていることが見方や立場を変えると必ずしもそうではないのではないかと様々なことを問い直すことができた。

(2) 教師の意識の変化

- ・国際協働がこんなにもワクワクするものなのだと知った。このような経験を重ねることで、多様な他者と対話し協働することの価値に気づき、異なるものを受け入れる寛容さが生まれるのだと感じた。
- ・未来を創る子供たちに今後どのような力を身につけてほしいか、今まで以上に考えるようになった。
- ・協働学習を進めるためには、自分たちがしっかりと考えをもたなければならないと思った。各自の課題に取り組む児童に対し、どんな姿を引き出すのか、何に気付かせるのか、教師がねらいをもって仕掛けていくこと、児童個々の学びに柔軟に対応することが大切だと実感した。
- ・日本の ICT 教育・英語教育の遅れを強く感じた。これまで画用紙でポスターを作って発表するものが主であった。一方、海外校は小学生であっても自分たちで動画編集を行い、流暢に英語で発表していた。これらの違いを目のあたりにし、これからの英語教育・ICT 教育の重要性を再認識した。
- ・日頃から自分で課題を見つけ、調べ、アウトプットして人に伝え、学びを深めるために、日本は ICT 教育を加速して進めるべきだと思った。
- ・生徒の理解が広がり、深まることで、教員の期待

も高まり、生徒の活動の幅が広がった。生徒のそれぞれの成長がうかがえたことが何よりの喜びであり、教員のこの活動に対する動機付けの高揚の原動力となった。

- ・この活動を地域に発信し、グローバルな感覚をより多くの生徒や他の教員にも広げたい。

4 アートマイルを通して見えた日本の教育の課題

これからの時代を創る人に必要な力は「自分の頭で考えて、判断して、行動する力」「価値観の違う人と対話して、協働して、新たなものを生み出す力」、つまり「生きる力」です。

この 10 年で生きる力が子どもたちにどれほど付いたでしょうか？

今、日本の教育が大きく変わらないと世界から取り残されるという危機感が、教師にあるでしょうか？

(1) 日本の教育の課題

コロナ禍の国際協働学習を通して、より鮮明に見えてきた日本の教育の課題について考えます。

①自分の頭で考えているか

始めから答えが分かっている「問い」ではなく、正解がない問題について「問い」を立て、生徒と一緒に悩みながら「解決」を考えているのでしょうか？

教師自身が教科書を覚える教育、正解が一つの問題を解く教育を受けて育ちましたから、教科書を教えるのではなく、自分の頭で考える授業をすることが難しいようです。

世界情勢が激しく変化する予測不能な時代に、教科書を教えるだけでは、次の時代を創る人は育ちません。自分の頭で考え、判断し、行動する人を育てることが必要です。

②批判的思考をしているか

日本人の多くは批判的思考が苦手なようです。教科書に書いていることやインターネットで調べたことをうのみにしている子どもたちが多い気がします。

情報を客観的な目で見える力、自分の考えを人に

分かるように論理的に説明する力が必要です。相手の意見を冷静に聞いて、自分の意見を返すことで議論が深まりますが、なかなか議論になっていないことが多く見られます。

③他者とコミュニケーションをとっているか

アートマイルでは、全ての学習の段階で相手と意見交換を繰り返すことで学びを深めますが、伝えっぱなしで相手に感想や意見を求めず、相手が発信したことに対しても感想や意見を返さない教師がかなりいます。それは、対話的な協働学習ではなく、自己完結型の学習です。

言葉のキャッチボールをすることで共感が生まれ、共感することで世界で起きていることが自分事になります。協働学習を行うにはコミュニケーションが不可欠です。

④価値観の違う人と協働しているか

これからの変化の多い時代を生きる子どもたちには、新しい価値を生み出す力が必要です。新しいものは、価値観が違う人との協働から生まれます。同質性からは新しいものは生まれません。

価値観の違う相手との協働には想定外がつきものです。想定外も「世界のリアル」と理解して取り込むことができたら、子どもたちの生きる力を大きく育てることができます。

⑤プレゼン力・英語力・ICT力を鍛えているか

日本の生徒は海外に比べて圧倒的にプレゼン力・英語力・ICT力が弱いのが現実です。コロナ禍の中、海外校の生徒の多くは自宅からオンライン授業に参加しています。小学生でも自力でインターネットで調べ学習をして、パワーポイントで自分の意見をまとめ、Zoom会議の時には英語(非母国語)で発表し、質問します。日本の生徒は、ほぼ質問に答えることができません。

プレゼン力を鍛えるには、小学生の時から自分で問いを立て、人とディスカッションする場面を増やすことです。

英語力を鍛えるには、実際に英語でコミュニケーションする場面で、失敗や成功の体験をすること

が必要です。失敗も、成功も、学習意欲のアップに繋がられます。

オンライン授業をしたらICT教育がマルではありません。ICTを使って情報を集め、自分の意見をまとめ、学びをアウトプットするツールとしてICTを活用すべきです。ICTは、思考を深めたり、広げたりする道具です。

プレゼン力・英語力・ICT力を付けないと、日本は世界から取り残されます。

5 予測不能な時代の教育

予測不能な時代にはどのような教育が求められるでしょうか？

(1)グローバルなプロジェクトベースの学習

一国で起きたことが瞬く間に世界に拡がり、どんな問題も日本だけで解決することはできません。変化が激しく予測が難しい時代を生きる力を育てるには、グローバルなプロジェクトベースの学習が必要です。国際協働学習は、子どもたちが将来世界の人々と一緒に仕事をする原体験となります。

(2)学習テーマは今世界が直面している課題

国際協働学習で扱う学習テーマは、今世界が直面している課題にすべきです。自分の身の周りで起きていることを世界とつなげて考え、さらに未来とつなげて考えることで、「自分たちが未来の社会を創る主体者だ」という意識が育ちます。

(3)求められるのは教師の覚悟

外と繋がらないと見えてこないことや実感できないことがたくさんあります。今のままでは日本は「沈みゆく船」だという危機感が、学校現場にはほとんどありません。

今、求められるのは教師の覚悟です。教師が外に目を開き、「同質性」の中に埋没するのではなく、世界の「多様性」にチャレンジすることで、世界で通用する明日の日本人を育てていただきたいと願っています。